

平成 30 年 12 月 25 日

修成建設専門学校
校長 堤下 隆司 様

学校関係者評価委員会
委員長 藤田 晴樹

学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 評価者

平成 30 年度 学校法人修成学園 学校関係者評価委員

委員名簿（敬称略・順序不同）	
丸山 徹	修成建設専門学校 後援会 役員
大庭 健二	株式会社大庭工務店
相賀 勝	元 吹田市理事
藤田 晴樹	株式会社ジェイネット 代表取締役
山崎 充	浅川道路株式会社 代表取締役
武井 彰	西部造園土木株式会社 代表取締役社長
田中 文雄	大和田連合振興 町会長
大和 正	学校法人興國学園 興國高等学校 教頭
苅野 起三子	学校法人修成学園 評議員

2. 評価期間

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

3. 委員会の開催状況

第一回委員会 平成 30 年 10 月 16 日（会場 修成建設専門学校 146 教室）

第二回委員会 平成 31 年 2 月 5 日（会場 修成建設専門学校 146 教室・実施予定）

4. 学校関係者評価委員会報告

平成 30 年 10 月 16 日に開催された委員会において、修成学園山下理事長、堤下学校長、さらに各学科長より、平成 29 年度の業務について自己評価報告書に基づき報告を受け、評価内容の確認を行った。また委員各自が、自己評価報告書に示されている評価項目に対し「自己評価結果」「改善に向けた取り組み」「今後の改善方策」の 3 項目について採点(4 点満点)を行い、その結果を示した。さらに、委員各位からの意見を取りまとめ報告書とする。

5. 採点結果(平均値)

調査項目	自己評価 結果	改善に向けた 取り組み	今後の 改善方策
基準 1 (教育理念・目的・育成人材像)	4.00	4.00	3.86
基準 2 (学校運営)	3.86	3.86	3.71
基準 3 (教育活動)	4.00	4.00	4.00
基準 4 (修学成果)	3.86	3.86	3.71
基準 5 (学生支援)	4.00	3.71	3.86
基準 6 (教育環境)	3.86	3.86	3.86
基準 7 (学生の募集と受け入れ)	3.86	3.71	3.71
基準 8 (財務)	4.00	4.00	4.00
基準 9 (法令等の遵守)	4.00	4.00	4.00
基準 10(社会貢献)	4.00	4.00	4.00
総計	3.94	3.90	3.87

6. 意見

全ての運営面での取り組みから改善点への一連の流れの中で堅実に、また着実に転結されており、評価できる面が非常に多いと思われる。また、就職決定が非常に好調であるとの事だが、就職のマッチングにおいて、卒業1年後に卒業生がどのように過ごしているのか、その動向を知りたいと考えます。仮に離職するケースがあるのであれば、原因は様々考えられるが、離職対策としてインターンシップ先企業の選定や、依頼先の拡充により、学生がインターンシップに参加=就職に結びつけるといったマッチングが機能して、以上の問題の改善が進むと考えられ、修成建設専門学校で学んだ学生並びに学校の教育そのものが高く評価されるのではと考えます。

社会状況から見ても、今後入学希望者は増加の傾向にある事が予想される。そのような中、学校運営の体幹とも言える教員の確保及び質の向上に注力することが望まれる。卒業後5年後、10年後の状況が学校の評価を更に高めると考える。業界の人材育成を支える教育機関として今後ますます発展するよう祈念します。

年々早く、大きくなる社会の変化に対応できるよう、学科毎の特色を明確にした教育活動をこれまでどおり継続していただきたい。

近年、地震や豪雨などの自然災害が多く発生している。近い将来にも起こると予想されている自然災害から学生・教職員を守るために引き続き防災や、安全管理などに十分配慮するようお願いしたい。

技術は日々変化するので、関連分野における業界などとの連携を取り、優れた教員の補充に努めていただきたい。

教育理念・目的・育成人材像の中で、一般社団法人専門職高等教育室保証機構の第三者評価を受審し、良い結果を得た事が大変良いと評価できる。また受審結果をウェブサイト公開している点についても評価できる。

建築施工管理技術検定試験に夏季休暇を利用した補習講座を設定している点が評価できる。また、大工希望者が増える中、同業務を取り扱う企業を新規開拓、また工場見学などを行う事が近々の課題と考える。

以上